



### 表紙のことば

4月6日、今井公民館でウォーキングキャラバンが開催され、100人を超える皆さんが参加しました。今井公民館を発着に、太田川河川敷などを歩く約6キロのコースをウォーキング。沿道には、サクラや菜の花が色鮮やかに咲き誇り、参加した皆さんは、春景色を楽しみながら歩きました。今後も各公民館でウォーキングキャラバンが行われます。是非、ご参加ください。

### 市民の動き

人口／86,451人 (前月比+26人)

(外国人登録者4,087人含む)

男性／43,593人 (前月比+66人)

女性／42,858人 (前月比+40人)

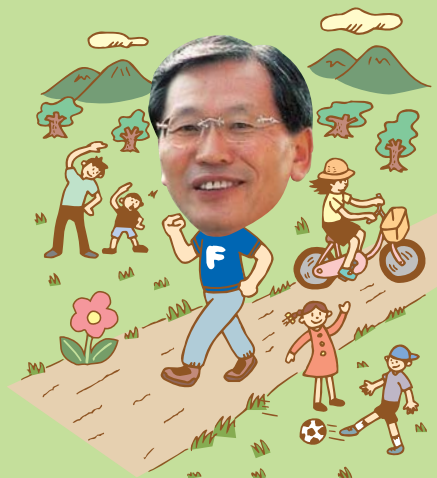
世帯数／30,350世帯 (前月比+58世帯)

平成20年4月1日現在

## 原田市長の

さんぽみち

# 散歩道



「目に青葉 山ほととぎす 初ガツオ」の季節になって、木々の緑が陽に映えて美しい。冬の間植えた庭の木も芽吹いて、小さな葉を付けている。とりわけ、知人からいただいた木は、枯らしてはいけないうと気遣ってきただけにうれしい。

先日、ボランティアでアマゾンの植林活動をしている旧友が訪ねてきた。近年の乱開発によって、アマゾンの熱帯雨林が16%も減り、地球上の酸素の3分の1を生み出し、「地球の肺」と呼ばれるアマゾンの森林は危機に瀕している。

終戦直後、単身でアマゾンに入植し、苦労を重ねた開拓農家の長坂優さん(旧清水市出身)に共鳴した友人は、世界中の一人ひとり

## 「緑のまち」

が一本ずつ植林してくれることを望んでいる。アマゾンの大河のようにゆっくり、のんびり、しかし止まることなく、この運動を続けていきたいと言う。私もアマゾンまでは行けないけれど、趣旨に賛同して会員になった。

市歌の作詞者の谷山浩子さんと景観アドバイザーの片山和俊さん(東京芸術大学教授)から、袋井市の印象は「緑のまち」で、街路樹をもっと増やした方が良いという意見をいただいた。私も同意見だが、これがなかなか難しい。街路樹は、通る方には快いが、

近くに住んでいる方には、落ち葉や虫などそうでないことも多い。

この課題を乗り越えるためには、街路樹の種類や高さを場所によって変え、フラワーポットによる代替を図ったり、歩道の拡幅や生け垣の推奨を更に進めたりするなどそれぞれの地域・場所が一番ふさわしい方法を見つけている。そのためには、周りの環境や状況をよく知っている地域の皆さんと樹木の特性や景観を知っている専門家、行政が一緒になって、よく話し合っって計画を作らなくてはならない。私たちの子どもや孫の時代に、袋井が本当の「緑のまち」として魅力的で誇れるように頑張っていきたいと思う。

広報

ふくろい



袋井市の市章

2008年(平成20年)5月1日発行 第75号

編集・発行／

袋井市役所総務部秘書広報課広報広聴係  
〒437-8666

静岡県袋井市新屋一丁目1番地の1

TEL 0538-43-2111 (代表)

【ホームページ】

<http://www.city.fukuoi.shizuoka.jp/>

【携帯サイト】

<http://www.city.fukuoi.shizuoka.jp/i/>

【Eメール】

[hisyo@city.fukuoi.shizuoka.jp](mailto:hisyo@city.fukuoi.shizuoka.jp)



古紙配合率100%再生紙を使用しています